

「種蒔くひと」

立原透耶

ある日、学校からの帰り道、不思議な人に出会った。その女性は真っ黒な服につばの大きな帽子、サングラス、マスクをして、手袋もしていた。

なにをしてるの？

と尋ねたぼくに、おねえさんは掠れた声で答えてくれた。

種を蒔いてるの。こうやって世界中を旅しているのよ。

おねえさんの足元の土は湿っていて、掘り返して埋めなおした跡があった。

素敵だね！ なんのタネ？

おねえさんの瞳がサングラスの下で微笑んだのを感じた。

いろんな種よ。坊やも、一緒に蒔いてみる？

うん！ やってみたい！

おねえさんはぼくにイチジクという果物をくれた。

まずはこれを食べてみて。

初めての食べ物。不思議な食感。どきどきしながら飲み込んだ。

そう。それじゃあ、種を蒔きに行きましょうね。

そしてぼくたちは旅立った。

今、ぼくはとてもワクワクしている。

ぼくのお腹の中の種が芽を出すんだって。どうやって？ どんな風に？
おねえさんの手が冷たくて、なんだかぼくは少し、悲しくなった。

(この記事から浮かんだ話)